資料２－２

第３期関西広域スポーツ振興ビジョン
（対象期間：令和９年度～令和 13 年度）
（中間案）

令和８年 10 月

関西広域連合

広域観光・文化・スポーツ振興局

スポーツ部

目　次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

１　スポーツをめぐる状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
（１）生涯スポーツの状況
（２）競技スポーツの状況
（３）パラスポーツの状況
（４）スポーツ人材の育成と活用
（５）国際競技大会のレガシーの創出及び継承・発展

２　関西が目指す将来像・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
（１）生涯スポーツ先進地域関西
（２）競技スポーツの聖地関西
（３）スポーツツーリズム先進地域関西

３　広域課題に対する戦略・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
【戦略Ⅰ】「ワールドマスターズゲームズ2027関西」のレガシーの継承
　①　広域スポーツ大会等の開催
【戦略Ⅱ】「生涯スポーツ先進地域関西」の実現に向けた戦略
　②　子供のスポーツ参加機会の拡充
　③　若者・中高年のスポーツの振興
　④　パラスポーツの振興
　⑤　地域のスポーツ振興に向けた広域的連携による支援
【戦略Ⅲ】「競技スポーツの聖地関西」の実現に向けた戦略
　⑥　国際競技大会・全国大会の招致・支援
　⑦　スポーツ人材の育成
【戦略Ⅳ】「スポーツツーリズム先進地域関西」の実現に向けた戦略
　⑧　広域観光・文化振興との連携
　⑨　スポーツ関連組織とのネットワーク形成

４　ビジョンの実現に向けて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

はじめに

関西広域連合では、「ワールドマスターズゲームズ 2021 関西」が開催される予定であった令和３年度までに関西広域連合として取り組むべきライフステージに応じたスポーツ振興施策とスポーツの副次的効果を明確にし、構成府県市と連携して取組を展開していくため、平成 28 年３月に「関西広域スポーツ振興ビジョン」を策定した。

第１期ビジョンでは、平成 28 年度から令和３年度までの６年間を対象期間として、スポーツ分野における関西が目指す３つの将来像とその実現に向けた戦略を掲げ、生涯スポーツの振興やスポーツ人材の育成、広域的なスポーツツーリズムのプログラム創出などに取り組んだ。この間、令和元年に東大阪市や神戸市を含む国内 12 都市で「ラグビーワールドカップ 2019」が開催され、大きな盛り上がりを見せたが、令和２年から約３年間にわたる新型コロナウイルス感染症の流行により、多くのスポーツイベントが中止・延期を余儀なくされ、「東京 2020 オリンピック・パラリンピック」は１年延期での無観客開催となり、「ワールドマスターズゲームズ 2021 関西」は二度の延期で令和９年に開催されることとなった。また、同感染症の流行による行動制限や施設の使用制限により、スポーツに親しむ府県市民も制約を強いられ、体力の低下や地域交流の不足等の悪影響が生じたが、一方で、この経験は、スポーツが生活や社会に活力を与えることを改めて認識する機会となった。

第２期ビジョンでは、令和４年度から令和８年度までの５年間を対象期間として、第１期ビジョンの３つの将来像と戦略を継承しつつ、感染症対策に配慮したウイズコロナ・アフターコロナ時代のスポーツ振興施策を推進した。令和６年に「神戸 2024 世界パラ陸上競技選手権大会」、令和７年に「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとする「大阪・関西万博」といった、スポーツや健康に関する世界的なイベントが関西で開催される中、令和９年に開催される「ワールドマスターズゲームズ 2027 関西」の成功を目指し、生涯スポーツの振興やスポーツ人材の育成、広域的なスポーツツーリズムの推進などに取り組んだ。

第３期ビジョンでは、令和９年度から令和 13 年度までの５年間を対象期間として、第１期ビジョン及び第２期ビジョンの３つの将来像を継承しつつ、「ワールドマスターズゲームズ 2027 関西」終了後の４つの戦略と、これまでの取組の成果を踏まえたスポーツ振興施策を提示することとする。

１　スポーツをめぐる状況

（１）生涯スポーツの状況

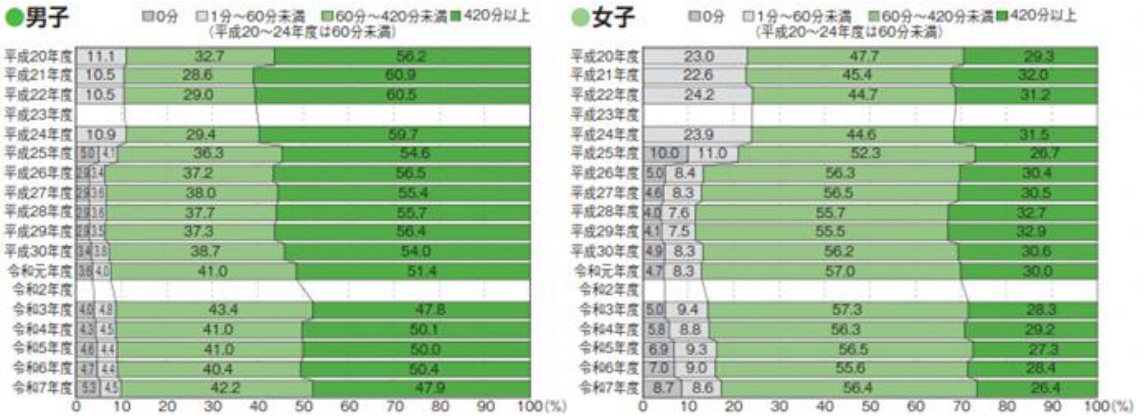
①　子供のスポーツ実施状況

スポーツ庁の調査によると、体育の授業を除く１週間の総運動時間が１時間未満の割合は、小中学生の男女ともに増加傾向である。また、１週間の総運動時間が７時間以上の割合は、小中学生の男女ともに減少傾向である。そのため、引き続き、スポーツの実施を促進する必要がある。

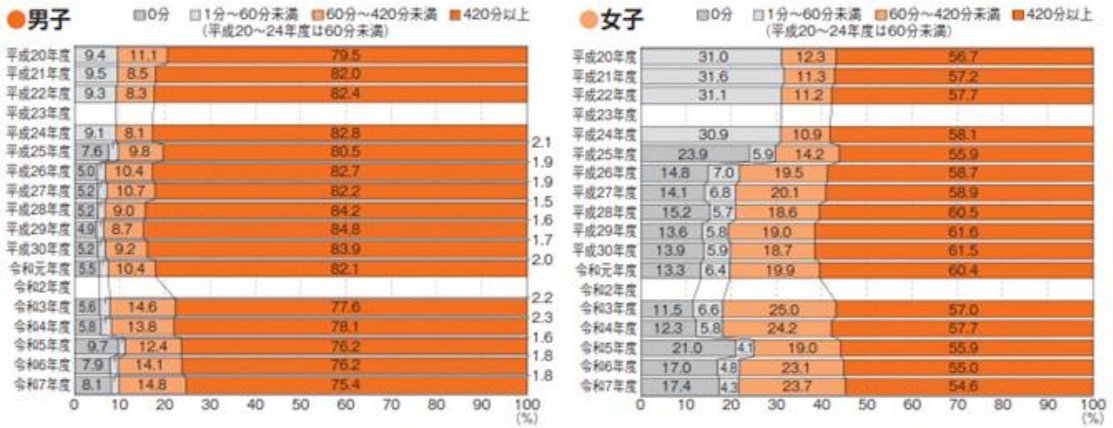
令和８年度から、中学校の部活動の地域展開等が全国的に本格化している。急激な少子化が進む中でも、将来にわたって生徒が継続的にスポーツを親しむ機会を確保・充実するため、これまで学校単位で行われてきた部活動を、地域全体で支える必要性が高まってきている。

＜小中学生の１週間の総運動時間（体育の授業を除く）の経年変化＞

［小学５年生］



［中学２年生］



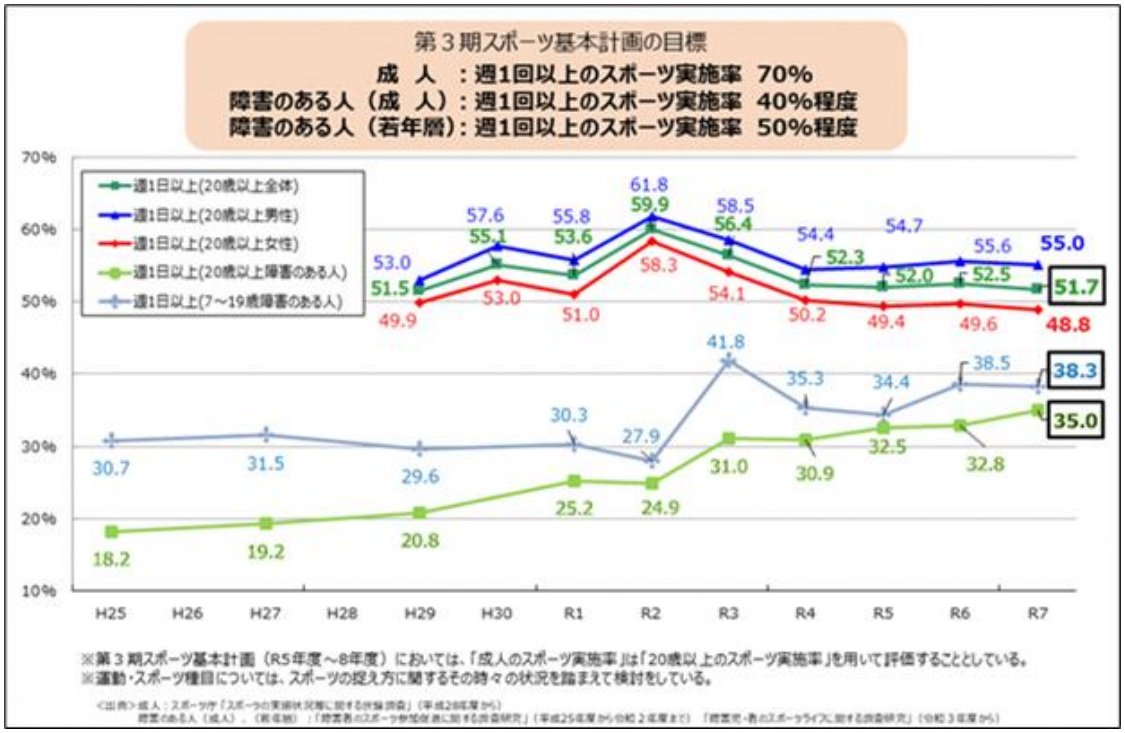
（出典）スポーツ庁「令和７年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」

② 成人のスポーツ実施状況

スポーツ庁の調査によると、令和７年度における、20 歳以上の成人の、週１日以上運動・スポーツをする者の割合（スポーツ実施率）は 51.7%であり、やや減少傾向にある。そのため、引き続き、スポーツの実施を促進する必要がある。

また、女性のスポーツ実施率は男性に比べて低いことから、女性の健康課題の解決が期待できるスポーツの普及啓発を行うとともに、環境整備を促進することが必要である。

＜20 歳以上のスポーツ実施率の状況（成人・障害のある人）＞



（出典）スポーツ庁ホームページ

＜地方ブロック別スポーツ実施率＞

地方ブロック等	週１日以上実施率	順位
1 北海道	49.4%	8
2 東北	48.8%	10
3 関東	54.2%	1
4 中部	50.4%	7
5 近畿	51.6%	5
6（関西広域連合）	(51.7%)	(4)
7 中国	51.3%	6
8 四国	49.0%	9
9 九州	52.8%	3
10 沖縄	53.0%	2
平均	52.1%	

※単年の調査結果では各都道府県における十分な標本が得られないため３年分（令和５～７年度）を合算して算出している（20歳以上）。

（出典）スポーツ庁「令和７年度スポーツ実施状況等に関する世論調査結果」をもとに関西広域連合で作成

（２）競技スポーツの状況

大規模競技大会の開催実績を有する競技施設が関西各地に整備されているが、構成府県市単独では、国際競技大会や総合スポーツ大会の招致が困難な場合もあることから、大規模競技大会の招致・開催を継続するため、施設利用におけるノウハウやネットワークを活用するなど、関西としてのスケールメリットを最大限に生かす必要がある。

（３）パラスポーツの状況

地域での障害者のスポーツ活動の場が少しずつ整えられ、スポーツ庁の調査によると、令和７年度における障害のある成人のスポーツ実施率は 35.0％で増加傾向にある。しかしながら、障害のない成人のスポーツ実施率 51.7％と比べると大きな隔たりがあるため、パラスポーツに関心を持ってもらう取組や、パラスポーツの実施環境の整備が必要である。

（４）スポーツ人材の育成と活用

大規模競技大会の招致・開催には、指導者・審判を含めた幅広いスポーツ人材の育成が欠かせない。そこで、各構成府県市が連携して、①パラスポーツ等の競技人口の少ない種目のアスリートの育成、②アスリートの育成に繋がる指導者・トレーナーの育成、③大規模競技大会の開催に必要となるスポーツ人材の育成等の取組を充実させていく必要がある。

（５）国際競技大会のレガシーの創出及び継承・発展

国際競技大会の開催は、地域のスポーツ振興に大きく寄与することはもちろん、地域住民のボランティア参加やホスピタリティを醸成し、競技場やインフラの整備、訪日外国人観光客の増加等の経済的な効果も生み出す。そのため、今後開催される「ワールドマスターズゲームズ 2027 関西」等の国際競技大会で生まれたこうした気運や様々な効果を一過性のものとせず、レガシーとして次世代に継承し、さらに発展させていくことが重要である。

２　関西が目指す将来像

第１期ビジョン及び第２期ビジョンと同様、次の３つの将来像の実現を目指す。

（１）生涯スポーツ先進地域関西

「ワールドマスターズゲームズ 2027 関西」の開催は、地域住民のスポーツ参加を促進し、地域活性化、さらには誰もが元気で活力のある健康長寿社会を実現する契機となる。

同大会のレガシーの継承や、同大会に続く新たなムーブメントの創出等、生涯スポーツの気運の高まりを持続的なものにする取組を推進していく。

また、同大会を開催する関西の強みを生かし、関西広域連合及び各構成府県市の連携のもと、多様なライフステージやライフスタイルに応じたスポーツ活動の機会を提供し、日本におけるマスターズスポーツの基盤づくりを推進することにより、スポーツに対する無関心層を減らすとともに、スポーツ参画人口の拡大につながる機会を創出し、日本の生涯スポーツの中核となる「生涯スポーツ先進地域関西」を目指す。

（２）競技スポーツの聖地関西

関西には、各競技において「聖地」とよばれるシンボリックな競技場が数多く点在し、また様々なスポーツ大会を生み育ててきた歴史、風土がある。これらスポーツ文化の進展は、「競技場が地域のスポーツ人材を育て、新たな競技大会の招致・開催を実現する基盤が整い、これにより再びスポーツ人材が育つ」といった好循環を創出し、地域の活力を生み出した。

この聖地と称される競技場や発祥の地を多く持つ関西の強みを生かし、各自治体において取り組んできた国際競技大会等の招致･開催について、関西広域として包括的に捉え、広域的なスポーツ人材の育成や施設の相互利用の促進を目指す。これにより、各自治体だけでは困難であった大規模競技大会運営の基盤を安定させ、新たな国際競技大会・合宿の招致実現性を高め、毎年、関西各地で競技大会が開催される環境をつくり出し、競技スポーツによる地域振興を推進するなど、日本の競技スポーツ大会の中核となる「競技スポーツの聖地関西」を目指す。

（３）スポーツツーリズム先進地域関西

莫大な集客力と経済波及効果をもたらすと言われるスポーツツーリズムをはじめとするスポーツ関連産業の活性化は、交流人口の拡大や定住促進等の地域の活性化に繋がるものである。

このため、「ワールドマスターズゲームズ 2027 関西」の開催をはじめ、これまで各自治体がスポーツと観光の垣根を越えて推進してきた国際競技大会･合宿招致と観光まちづくりを関連付けた取組について、今後も関西広域連合として各構成府県市の広域的連携のもと、関西の地域観光・文化資源とスポーツを融合したプログラムの開発･展開によって、関西内外からの訪問者やインバウンドの拡大を図るなど、関西の経済の活性化を促進し、「スポーツツーリズム先進地域関西」を目指す。

３　広域課題に対する戦略

関西が目指す将来像の実現に向けた戦略として、上記の「１　スポーツをめぐる状況」」や、これまでの取組の成果を踏まえつつ、各構成府県市で実施するよりも関西広域連合で実施した方が効率的または効果的と考えられる以下の①から⑨までの施策に取り組む。

【戦略Ⅰ】「ワールドマスターズゲームズ 2027 関西」のレガシーの継承

①　広域スポーツ大会等の開催

関西では、当初、令和３年に開催予定であった「ワールドマスターズゲームズ関西」の開催に向けて、平成 26 年度からワールドマスターズゲームズ 2021 関西組織委員会が「関西マスターズスポーツフェスティバル」を、平成 29 年度から関西広域連合が「関西シニアマスターズ大会」を、令和４年度からは、両事業を統合して、関西広域連合が「関西マスターズゲームズ」を開催してきた。これらにより培われた広域スポーツ大会開催の基盤と、スポーツへの関心の高まりに加え、各地で国際大会を開催した実績を「ワールドマスターズゲームズ 2027 関西」のレガシーとして次世代に継承し、各開催地で同大会を契機とした競技大会が継続実施されるよう支援することを通じ、スポーツに親しむ文化が関西に定着することを目指し、同大会終了後も「関西マスターズゲームズ」を開催する。

また、同大会の機運醸成のために創設した「関西スポーツ月間」（５月）を同大会終了後も継続し、同月間を中心にスポーツイベントを開催する。

各地の取組については、同大会のレガシーとしてまとめて情報発信し、「生涯スポーツ先進地域関西」をアピールする。

【戦略Ⅱ】「生涯スポーツ先進地域関西」の実現に向けた戦略

②　子供のスポーツ参加機会の拡充

生涯スポーツを推進していくためには、まず子供の頃からスポーツに接する機会を増大させることが必要である。

このため、スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブ等の府県域を超えた交流を図ることを目的として、平成 29 年度から、「関西小学生スポーツ交流大会」を開催してきた。今後は各構成府県市の取組を一層充実することで、子供のスポーツ参加機会を増やし、また「中学校部活動の地域展開等」にも資するため、各地域の先進事例やノウハウを広域で共有、意見交換する場を設けるとともに、関連情報をホームページ等で発信する。

③　若者・中高年のスポーツの振興

生涯スポーツを振興するために、日常の運動や加齢に伴う健康増進を目的としたいわゆるヘルススポーツのほか、高齢者だからこそ取り組むことができる余暇充実を目的としたレジャースポーツや目標挑戦を目的とするマスターズスポーツにも注目し、スポーツライフの多様化に対応していくことが重要である。

このため、中高年を中心に、日々の運動習慣の促進と定着を図ることを目的として、デジタル技術を活用したウォーキングやサイクリング等のスポーツイベン

トを「関西スポーツ月間」（５月）に開催するほか、誰もが参加しやすい「関西マスターズゲームズ」を開催するなど、スポーツへの参加機会の拡充を図る。

また、若者から中高年まで幅広い層のスポーツ参加を促進するため、ニュースポーツやアーバンスポーツの関連イベントや体験できる施設等の情報をホームページで紹介する。

さらに、女性のスポーツ参加を促進するため、スポーツイベント等の企画や参加形態、情報発信の充実等の方策を検討していく。

上記の取組にあたっては、「関西スポーツ医・科学サポートコンソーシアム」とも連携し、安全なスポーツ実施につなげるべくスポーツ医・科学の知見を活用する。

④　パラスポーツの振興

「東京 2020 パラリンピック」に続き、関西では「神戸 2024 世界パラ陸上競技選手権大会」が開催され、パラスポーツへの関心が高まった。これを一過性のものとして終わらせるのではなく、障害の有無を問わず、全ての人々のライフステージやライフスタイルに応じたスポーツ活動を支援するために、パラスポーツの課題であるスポーツに参加できる環境の整備、パラスポーツの普及、パラスポーツに対する理解を深める取組を推進することが極めて重要である。

このため、総合型地域スポーツクラブ等との連携事業等の実施、パラスポーツに対する理解促進や普及を図るための体験会等の実施、地域のスポーツ指導者を対象とした障害の特性に応じた指導者養成等に取り組むことにより、障害者が気軽にスポーツに参加できる機会を拡充する。

また、関西内外から参加者を募る広域スポーツ大会「関西マスターズゲームズ」にインクルーシブな視点を取り入れて開催することにより、障害者の大会参加を促進する。

⑤　地域のスポーツ振興に向けた広域的連携による支援

「ワールドマスターズゲームズ 2027 関西」等で高まった地域のスポーツ振興を風化させずに永続的、持続的なものとするためには、各大会の準備と成果を共有し、大会後も個人・地域・社会・文化の発展に繋げる長期的な取組が必要である。

このため、経済団体と連携して、スポーツ振興等に取り組む企業やスポーツを支える審判員を表彰する制度の継続的な実施や、企業に所属するアスリートのスポーツ大会・イベント等への派遣等、スポーツに参加しやすい風土づくりやスポーツへの参加機会の拡充に取り組む。

この他、各種スポーツ大会の招致により、家族、親族、職域、同窓会等様々なグループによるスポーツへの参加形態の創出や大学・研究機関、スポーツ団体、民間企業者等と連携を図りつつ、スポーツボランティア活動に参加できる環境を整備する。

【戦略Ⅲ】「競技スポーツの聖地関西」の実現に向けた戦略

⑥　国際競技大会・全国大会の招致・支援

スポーツを通じた関西の活性化を推進するためには、府県市民のスポーツへの関心や地域ホスピタリティの向上、国際交流の進展、地域の情報発信等の成果をもたらす大規模競技大会の招致とこれらにより高まったスポーツの気運を継続的なものとすることが重要である。

このため、インバウンドの拡大が期待できる国際競技大会や事前合宿、全国からの訪問者の拡大が期待できる全国大会等の関西各地への招致を支援し、各構成府県市の特性を生かせる広域的なスポーツイベントの開催を検討する。

また、関西全体として大規模スポーツ大会の招致に取り組むため、各地に整備されている大規模競技施設利用に関する連携ネットワークを活用する。

この他、国際競技大会や、国民スポーツ大会、全国障害者スポーツ大会（R13～全国パラスポーツ大会）等の総合スポーツ大会の開催に向けた機運醸成の取組を支援していく。

国際競技大会等の招致後においては、次世代へ引き継ぐレガシー（有形・無形の遺産）の創出等により、聖地化へと発展させていく。

⑦　スポーツ人材の育成

大規模競技大会の招致・開催のためには、アスリートの育成はもとより、大会運営を支える指導者、審判、役員等のスポーツ人材の育成・確保が必要不可欠である。

このため、各構成府県市と連携し、パラスポーツ等の競技人口が少ない競技種目のアスリート育成練習会や、スポーツ医科学研究等の知見も活用した指導者・トレーナーの育成、女性指導者の育成を行うほか、「関西マスターゲームズ」等の開催により、スポーツ大会の企画・運営など地域スポーツの推進を担う人材を育成する。

【戦略Ⅳ】「スポーツツーリズム先進地域関西」の実現に向けた戦略

⑧　広域観光・文化振興との連携

令和７年に「大阪・関西万博」が開催され、今後も「ワールドマスターズゲームズ 2027 関西」が開催される関西は、インバウンドをはじめとしたツーリズムを拡充させる絶好の機会を迎えることから、広域的なスポーツツーリズムを整備、促進させる取組が極めて重要である。

このような状況を踏まえ、インバウンドをはじめとした国内外からの誘客や、観光・文化・スポーツ振興の相乗効果を図るため、関西に集積する多彩な観光・文化資源とスポーツを融合して開発した「関西広域サイクリングルート」に関する情報をホームページや SNS 等で発信するとともに、同ルートを周遊するイベントを開催する。

また、前述した「ワールドマスターズゲームズ 2027 関西」を契機としたレガシー大会となる「関西マスターズゲームズ」を通じたスポーツツーリズムについても取り組む。

これらのイベントや大会の企画にあたっては宿泊や飲食等の地域経済効果も

考慮するとともに、参加者募集においてはターゲットを意識した情報発信に取り組む。

さらに、ＤＭＯと連携して、ゴルフツーリズム等の関西のスポーツツーリズムをホームページで紹介する。

⑨　スポーツ関連組織とのネットワーク形成

関西には、世界的にみてもスキー、ゴーグル、障害者専用のスポーツ用品等スポーツ関連の製造業をはじめ、繊維製品、革製品、ゴムやケミカル等地場産業とつながりが強い特色のある企業が多いほか、医療関連産業も集積しており、先端医療研究機関や高度専門病院、医療関連企業などが集中している。

また、関西は高校野球、高校サッカー、高校ラグビーの第１回全国大会開催地であることや、日本で最初にゴルフコースが開設されたこと、さらには、駅伝、グラウンド・ゴルフ、合気道の「発祥の地」としての位置付けがなされている地域でもある。

このように、スポーツ文化を培ってきた関西は、今後、各種スポーツの伝統を継承するとともに、「観光」をはじめ、「食」「アミューズメント」「ファッション」「健康」「医療」等スポーツと関連した産業の発展が大いに見込まれる地域であると考えられる。

このため、スポーツの持つ多様な価値を最大限に生かし、関西の地域スポーツコミッションや企業、行政、競技団体、大学等、各機関が連携し、地域経済の活性化やスポーツを軸とした関連産業の活性化、スポーツ医科学研究の推進、スポーツツーリズムの新たな展開に向け、スポーツによる地域振興方策等を検討していく。

4　ビジョンの実現に向けて

関西広域連合は、本ビジョンの実現に向けて、構成府県市や関西経済界、スポーツ競技団体等との連携・協力を一層強化し、関西のスポーツを振興する方策を、官民連携により、引き続き検討していく。

また、本ビジョンの実現に向けた役割として、関西広域連合は構成府県市間や外部機関との調整・連携機能を担うとともに、各構成府県市で実施するよりも関西広域連合で実施した方が効率的または効果的な広域の施策に取り組み、構成府県市は各々の地域の特性を踏まえた施策に取り組む。